

平成19年7月26日
農 林 水 産 省

平成19年度病虫害発生予報第5号（水稻特集）

まもなく8月を迎えますが、水稻栽培ではこの時期に的確な病虫害防除を行うことが重要です。

7月に入り、低温及び日照不足並びに大雨や台風の影響で病害が発生しやすい状態が続いているため、東北から九州にかけた広い地域でいもち病の発生が懸念されます。また、大雨で水稻が浸冠水した本田では、白葉枯病の発生が懸念されます。病害の防除対策は、発生の早期発見、発生初期での薬剤散布が基本となりますので、本田の見回りでは、葉及び葉鞘を注意深く観察してください。

加えて、これから出穂期を迎える地域では、着色粒が発生させる斑点米カメムシ類による被害が懸念されます。

向こう1か月の天候は、東日本と西日本では、前半は平年と比べ曇りや雨の日が多く、後半は平年と同様に晴れの日が多く、また、北日本と南西諸島では平年と同様に晴れの日が多いと予想されています。

東日本や西日本では、7月に入ってから日照時間が平年を大幅に下回っており、向こう1か月も前半を中心に少ない見込みと予想されています。

病虫害防除に当たっては、天候の状況に注意しつつ、都道府県の発生予察情報に留意し、地域ごとの防除要否を見極めて、適切な防除を行ってください。

【用語の解説】

【発生量（程度）】

多い（高い）	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い（やや高い）	平年並みの外側20%の度数の入る幅
平年並（やや低い）	平年並を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない（やや低い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない（低い）	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

【地域】

北海道	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
東北	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
関東	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
中部	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
近畿	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
四国	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
九州	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
沖縄	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
北海道	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
東北	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
関東	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
中部	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
近畿	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
四国	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
九州	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県
沖縄	道北、道東、道南、道央	青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、神奈川県

【水稻】

（いもち病）

いもち病については、7月24日までに4県から「注意報」が発表されており、今後の発生は北九州の一部地域で「多い」、北海道、東北、関東及び甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。これらの地域では、本年の6月中から7月上旬の天候がいもち病の感染に好適な条件となったことから、本田を注意深く見回り、早期の葉いもちの病斑発見に努めるとともに、発生を認めた場合は、直ちに薬剤を散布してください。なお、葉いもちの病斑は、感染してから5～10日後に出現するので、都道府県病虫害防除所から発表される感染好適日を水田見回りの参考としてください。また、上位葉に葉いもちの病斑が見られるところでは、穂いもちの発生が懸念されます。薬剤散布は、穂ばらみ期及び穂揃期に実施してください。

（紋枯病）

紋枯病の発生は東北、北陸並びに東海及び近畿の一部地域で「やや多い～多い」と予想されます。本病害は梅雨明け後に高温・多湿が続くと発生が助長されるので、穂ばらみ期～出穂期に発生が見られる場合は、発生に応じて薬剤を散布してください。

（白葉枯病）

白葉枯病の発生は平年並み以下と予想されますが、台風、大雨等により水稻が浸冠水した場合には、激発することがあります。本病は浸冠水の約10日後に葉先に近い肩の部分に黄白色の初期病斑が形成されるので、本田の見回り際には、葉を注意深く観察し、早期の病斑発見に努めるとともに、病斑を認めた場合には薬剤散布を実施してください。

（斑点米カメムシ類）

斑点米カメムシ類は、7月24日までに5県から「注意報」が発表されており、今後の発生は北陸、四国及び南九州の一部地域で「多い」、北東北、南関東、東海、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。斑点米の低減のため、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草及び水田周辺のイネ科牧草（イタリアンライグラス等）を草刈りする際には、出穂期10日前までに終了するよう行ってください。なお、出穂時期前後の草刈りは、水田への飛び込みを助長するので避けてください。薬剤の散布時期については、斑点米の原因となるカメムシ類の種類が地域により異なるので、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考にしてください。

（ウンカ類）

セジロウウンカの飛来量は、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」ほかは、平年並み以下となっています。また、今後の発生は四国の一部地域で「多い」、南関東、東海、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本田見回り際には、水稻の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が見られる場合は、都道府県病虫害防除所で発表される発生予察情報で防除情報を確認し、発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

トビイロウンカの飛来量は、四国の一部地域で「やや多い～多い」となっています。また、今後の発生は近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。水稻の株元を注意深く観察し、成虫及び幼虫の発生量に応じて、薬剤散布を実施してください。

（コブノメイガ）

コブノメイガの飛来量は、中国及び南九州の一部地域で「やや多い～多い」となっています。また、今後の発生は北九州の一部地域で「多い」、四国の一部地域で

「やや多い」と予想されます。本虫の防除適期は、飛来時あるいは次世代の発蛾最盛期の7日後であるので、都道府県病虫害防除所から随時出される飛来情報をもとに防除の適期を確認してください。

(フタオビコヤガ)

フタオビコヤガの発生は北東北及び北陸の一部地域で「多い」、南東北、北関東、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。本田内の幼虫の発生状況を観察し、発生に応じて薬剤を散布してください。

【その他】

前回(平成19年7月12日)以降、各都道府県が発表している注意報及び特殊報は下記のとおりです。

○注意報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
7月11日	石川	水稻	斑点米カメムシ類
7月11日	長野	果菜類・花き類	ウイルス病害
7月12日	石川	水稻	斑点米カメムシ類
7月12日	福岡	かんきつ類	かいよう病
7月12日	新潟	ねぎ	べと病
7月12日	新潟	すいか	炭そ病
7月13日	鳥取	なし	シンクイムシ類
7月13日	徳島	水稻	斑点米カメムシ類
7月13日	岩手	水稻	いもち病(葉いもち)
7月18日	鳥取	水稻	いもち病(穂いもち)
7月19日	岐阜	水稻	いもち病(葉いもち)
7月19日	長野	水稻	いもち病(葉いもち)
7月24日	鳥取	なし	黒斑病
7月24日	宮崎	かんきつ類	かいよう病

○特殊報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
7月11日	千葉	トマト	トマト緑かび病

<平成19年度の病虫害発生予察予報の発表日程>

第1号	4月19日(木)・・・公表済み
第2号	5月17日(木)・・・公表済み
第3号	6月14日(木)・・・公表済み
第4号	7月12日(木)・・・公表済み
第5号	7月26日(木)・・・今回発表
第6号	8月9日(木)
第7号	9月6日(木)
第8号	11月29日(木)
第9号	2月28日(木)

【問い合わせ先】

消費・安全局植物防疫課

担当：大岡、城島

代表：03-3502-8111(内線4562)

直通：03-3502-3382

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>